

SUCCESS STORY

火災リスクなしの油性離型剤

明石合銅様がBENTOGLISSを選んだ理由



株式会社明石合銅

同社は石川県白山市に所在し、銅合金鋳物・バイメタル製品・粉末焼結部品を製造・販売している企業です。1946年の創業以来、独自の銅合金鋳造技術を活かしたものづくりで、建設機械用油圧機器部品や水廻り部品など、多様な製品を製造している会社です。

素材から精密加工まで一貫生産を行っており、その高い技術力と生産性から国内・海外の顧客から高い評価を得ています。

ホームページ：[株式会社明石合銅](#)

——まず、今回BENTOGLISS 121を採用された「きっかけ」を教えてください。

以前、他社製の油性離型剤を使用していた際に、造型機の溶接修理作業中、離型剤を含んだ砂に引火するボヤを経験しました。それ以来安全対策として「燃えないもの」を優先し水性・水溶性の離型剤を使用していました。しかし、水性は油性に比べて離型効果が弱く、噴霧量やメンテナンス回数が多いことに悩んでいました。そんな中、BENTOGLISSの情報を頂いたのがきっかけです。

——安全対策で導入した「水性離型剤」には、どのような課題があったのでしょうか？

水性離型剤は成分が分離しやすく、ノズルの詰まりが多く発生してしまいました。その結果、部品交換やメンテナンスの回数が増え、現場の負担になっていたのです。もちろん火災リスクはありませんが、生産効率の面で課題を感じていました。

——導入前に不安はありませんでしたか？

「ノズルからしっかりと噴霧されるのか？」そして提案にあった「散布回数を5～10回に1度まで減らせるというのは本当なのか？」という点の判断が難しく、慎重になりました。またテスト当初、BENTOGLISS容器が樹脂ドラムであったため、廃棄時に無駄なコストがかかり問題視していましたが、現在は鉄ドラムに変更されており、その点も解決しています。

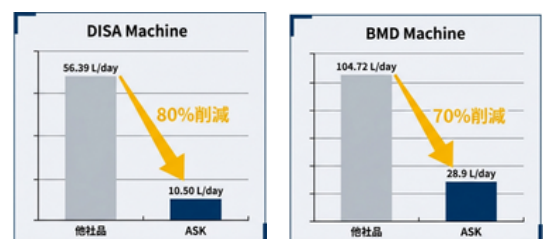
——実際に導入されてみて、効果はいかがでしたか？

一番のメリットは、高い離型性を有する油性でありながら引火点が高く燃えにくいことで安心して使用できることです。また、水溶性の場合は毎枠ごとに散布していましたが、導入後は「5回に1度」の散布で済みます。ドラム缶1本あたりの単価は従来品より上がりましたが、使用量が劇的に減ったためトータルのランニングコストは改善されています。

■ インタビューのポイントまとめ

明石合銅様の現場では、離型剤の見直しにより「安全性」と「生産効率」の両立が実現しました。

- ① 高引火点(125℃)により、油性でも火災リスクを大幅低減
- ② ノズル詰まり・分離トラブルがなく、メンテナンス負荷を軽減
- ③ 散布頻度を約80%削減（毎枠散布⇒5回に1度の散布に改善）



使用量削減グラフ（※海外での使用実績例）